

1) 肝と比べた脾への RI 集積は、milli MISA の方が平均 2 倍高く、かつ $^{99m}\text{Tc-phytate}$ と $^{99m}\text{Tc-milli MISA}$ のそれぞれにおける脾/肝の集積比はよく相関した。

- 2) 骨髄への RI 分布は両者同程度であった。
- 3) 腎の描出は $^{99m}\text{Tc-phytate}$ の方が高かった。
- 4) Back ground adirty は両者同程度であった。
- 5) 肝内 S.O.L. の描出に差はなかった。

以上より $^{99m}\text{Tc-milli MISA}$ は肝シンチ用の Agent として有用と思われた。

座長のまとめ (9~12)

仲山 親

演題 9: ^{99m}Tc で標識した EDDA は 100% の標識率を示し、化合形態は安定で血中クリアランス、肝集積は $^{99m}\text{Tc-EHIDA}$ より良好であった。

演題 10: $^{99m}\text{Tc-phytate}$ 5 mCi 静注後 10 秒ごとに 60 秒まで早期イメージとしてポラロイドに記録し、さらに total image に 10 秒ごとの log image をかけて疾患ごとに検討を加えた。

演題 11: 確定診断が得られ、 ^{198}Au コロイドないし $^{99m}\text{Tc-Sn-コロイド}$ でシンチグラフィを行なった 52 例のび慢性肝疾患について、(1) 肝の形態、(2) 肝/脾、(3) 脾影、(4) 骨髄の描出度などの点について判定基準を作り検討を加えた。

演題 12: 同一症例に $^{99m}\text{Tc-microsphere}$ (Cis 製) と $^{99m}\text{Tc-phytate}$ により肝シンチを行ない、肝、脾、腎、骨髄などの描出度合、肝内 SOL の検出能、バックグラウンドなどの点について検討を加えた。

13. 消化器癌肝シンチグラフィにおける偽陽性例について

広田 嘉久 上野 助義 土亀 直俊
福井康太郎 仏坂 博正 片山 健志

(熊大・放)

昭和 49 年 4 月より昭和 53 年 12 月まで行なった約 3,500 例の肝シンチグラフィのうち、540 例の消化器癌患者の肝シンチグラムについて検討を行なった。全体の正診率は 483/540 (89.4%) であった。偽陽性例は 43 例にみられ、疾患別にみると食道癌 5 例、胃癌 8 例、大腸癌 5 例、胆道および膵領域癌 25 例であった。共通してみられる原因は、生理的欠損部位の欠損例、肝のう胞、肝硬変などであり、特徴的にみられるものとして、食道、胃癌における腹腔リンパ節腫脹による欠損、胆道および膵

領域癌における胆管拡張による欠損であった。

14. 乳房、肋骨、腎による肝シンチグラム上の欠損様所見について——体位による比較

城野 和雄 坂田 博道 中條 政敬

篠原 慎治

(鹿大・放)

われわれは、肝内 SOL の検出における立位肝シンチグラフィの有用性を報告してきたが、最近高解像力シンチカメラによる撮像を行なうようになってから、肝外性因子による欠損像を以前より多く経験するようになった。

そこで肝外因子として乳房、腎、肋骨を取り上げ、これらの因子による欠損像の現われ方を撮像体位別に検討した。

対象は最近約 1 年間に立位と臥位の両体位で、 $^{99m}\text{Tc-phytate}$ による肝シンチグラフィを実施した症例で、乳房 (9 例)、腎 (6 例)、肋骨 (7 例) による欠損像が正面像で認められた 22 例である。

正面像におけるこれらの欠損像は、臥位よりも立位で出現しやすい傾向にあり、立位では乳房は右葉上部に、腎は右葉中下部に decreased activity area として、肋骨は右葉下外側縁にくびれた形で認められたが、臥位では縮小ないし消失がみられた。また両体位とも、右側面、背面像との比較により肝内 SOL との鑑別は可能であった。

15. 肝シンチグラムと超音波検査との比較検討

仏坂 芳孝 中山 信一 赤川 晴美

森田誠一郎 大竹 久

(久大・放)

矢野 潔

(県立柳川・放)

昭和 53 年 7 月 1 日より 54 年 11 月 30 日までの 1 年 5 か月間に、当科の外来入院患者で肝シンチグラムと超音波検査を併用した 80 症例について検討した。シンチグラム装置は、53 年 7 月 1 日より 54 年 9 月 10 日までは γ カメラ東芝 GCA 102 型、54 年 9 月 10 日以降は γ カメラ東芝 GCA 401 型、超音波検査は電子走査型超音波断層装置で行なった。

結果は、肝シンチグラムで SOL (+)、超音波で陽性所見を得たもの 30 例、SOL (-) で超音波で所見なし 22 例、うち超音波で見落とし 2 例、SOL (-) で超音波で所見あり 1 例、両方共所見なしは 27 であった。sensitivity は 62%、specificity は 96% という成績を得た。